



『The promise of music』
Universal Classics & Jazz 2008
UCBG-1266 (請求記号●VE2271)

『The promise of music』 ～グスターボ・ドウダメルと シモン・ボリバル・ユース・ オーケストラの記録～

田村 和子

南米ベネズエラの一人の若い指揮者が話題を呼んでいます。髪をふり乱し、指揮台の上を飛びはね、紡ぎ出す音楽はエネルギーに満ちています。グスターボ・ドウダメルは、昨年暮れに来日を果たし、日本の聴衆をも魅了しました。雑誌『音楽現代』は、緊急に12ページの特集を組み、演奏会の様子はNHKハイビジョン放送や教育テレビで放送されました。若いと言っても、指揮者としてのキャリアは、すでに10年に及びます。彼は、1999年、18歳でシモン・ボリバル・ユース・オーケストラ・オブ・ベネズエラ(以下SBYOと省略)の首席指揮者となり、2004年に「グスタフ・マーラー国際指揮者コンクール」で優勝。その後の活躍は、『音楽現代』の特集に詳しく載せられていますので、興味ある方は是非一読を……。

ベネズエラには通称「エル・システマ」(正式名称は、国立財団ベネズエラ児童青少年オーケストラシステム)と呼ばれる全国組織があります。各地の支部で、放課後に音楽教室を開き、そこで学んだ子どもたちを集めて児童オー

ケストラ(小中学生が中心)や青少年オーケストラ(高校生から20歳前後)を設立しています。支部によっては、合唱団、吹奏楽グループなどがあるところもあります。無料で楽器を貸与し、音楽の基礎知識や楽器の演奏技術を教え、貧しい若者たちにもオーケストラ合奏や合唱に参加する機会を与えるのです。各支部のオーケストラで経験を積んだ若者たちは、オーディションを受けて全国規模のオーケストラに入ることが出来ます。SBYOは、必要に応じて編成される全国選抜チームの一つで、給与が支給され、必要な人には住居も用意してくれるといえます。そして、そこからは世界への門も開かれています。

このDVDは、2007年秋、SBYOがドイツのボンで開催された国際ベートーヴェン音楽祭に参加した時の、リハールサルから本番までを追ったドキュメンタリー(91分)とコンサート本番の録画(64分)です。ドウダメルを含めて5人のSBYOのメンバーを中心に、「エル・システマ」との出会い、音楽とどう向き合っているか、彼

らを支える家族への取材、カラカスの街の映像(斜面に不法占拠の貧民区が広がっています)などを混ぜながら、彼らが海外公演という新しい挑戦に向かっていく姿が映し出されています。

僕は一緒に音楽をつくっている仲間の一部です。(中略)音楽は皆と一緒に作り出すものです。指揮者は孤高の存在ではない。だから僕は、できるだけ彼らと一緒にいたいのです。

ドウダメルが『音楽の友』のインタビューの中でSBYOについて語った言葉です。

参考資料

◆山田真一著「エル・システマ 音楽で貧困を救うベネズエラの社会政策」教育評論社 2008 (請求記号●J115 076)

◆『緊急特集 ドウダメルがキターッ!!』『音楽現代』2009年2月号 (請求記号●P640 39(2))

◆山田真一取材・文「グスターボ・ドウダメルに直撃!」『音楽の友』2009年3月号 (請求記号●P649 67(3))